

# 静岡県環境負荷低減事業活動に関する指針（農業編）

令和5年12月

静岡県

## 目 次

1	趣旨 .....	1
2	導入すべき環境負荷低減事業活動の内容 .....	1
3	各作物別指針 .....	6
4	環境負荷低減事業活動の促進を図るための措置に関する事項 .....	6
5	その他の事項 .....	7
6	対象農作物及び導入指針一覧 .....	8

### (作物別指針)

(グループ1)      (グループ2)

(作物名)

米		1 水稻 .....	10
		2 飼料用米 .....	11
		3 稲WCS .....	12
麦類		4 小麦 .....	13
		5 ライ麦 .....	13
雑穀類		6 キビ .....	14
		7 トウモロコシ (子実) .....	15
		8 スイートコーン .....	15
		9 そば .....	16
豆類 (種実)		10 大豆 .....	16
		11 小豆 .....	17
		12 ラッカセイ .....	17
		13 その他の豆類 (種実) .....	18
いも類		14 カンショ .....	18
		15 サトイモ .....	19
		16 バレイショ .....	19
		17 やまのいも (自然薯、ナガイモ) .....	20
		18 その他のいも類 (キクイモなど) .....	20
野菜類 (葉茎菜類)	なばな類	19 ナバナ .....	21
		20 さいしん (油菜芯) .....	21
	非結球あぶらな科野菜	21 ケール .....	22
		22 コマツナ .....	22
		23 山東菜 .....	23
		24 タアサイ .....	24
		25 チンゲンサイ .....	25
		26 てごろ菜 .....	26
		27 ミズナ .....	26
		28 ルッコラ .....	27
	非結球レタス	29 非結球レタス .....	28
		30 サンチュ .....	29
	しそ科葉菜類	31 エゴマ .....	29
		32 シソ .....	30
		33 バジル .....	31
	せり科葉菜類	34 コリアンダー .....	32
		35 セルリー .....	33
	その他	36 アスパラガス .....	34
		37 食用アロエ .....	34
		38 エンサイ (クウシンサイ) .....	35
		39 カリフラワー .....	35
		40 キャベツ .....	36
		41 クレソン .....	36
		42 シュンギク .....	37
		43 ショウガ (根ショウガ) .....	37

(作物別指針)

(グループ1) (グループ2)

(作物名)

		44 ショウガ (葉ショウガ) .....	38
		45 すみれ菜 (スイゼンジナ) .....	38
		46 タマネギ .....	39
		47 ツルムラサキ .....	40
		48 トチュウ .....	41
		49 ニラ .....	42
		50 ニンニク .....	43
		51 葉ニンニク .....	44
		52 ネギ .....	45
		53 ハクサイ .....	47
		54 フキ .....	48
		55 ブロccoli .....	48
		56 茎ブロッコリー .....	49
		57 ホウレンソウ .....	49
		58 ミョウガ .....	50
		59 メキャベツ .....	50
		60 モロヘイヤ .....	51
		61 ラッキョウ .....	52
		62 エシャレット .....	52
		63 レタス .....	53
		64 ワケギ .....	53
野菜類	うり類 (漬物用)	65 トウガン .....	54
(果菜類)	とうがらし類	66 シシトウ・トウガラシ .....	55
	豆類 (未成熟)	67 エダマメ .....	56
		68 サヤインゲン .....	57
		69 サヤエンドウ .....	58
		70 未成熟ソラマメ .....	59
	その他	71 イチゴ .....	60
		72 オクラ .....	61
		73 カボチャ .....	62
		74 キュウリ .....	63
		75 スイカ .....	65
		76 ズッキーニ .....	66
		77 トマト .....	67
		78 ナス .....	71
		79 ニガウリ .....	73
		80 ピーマン .....	74
		81 マクワウリ .....	75
		82 温室メロン .....	76
		83 カブ .....	77
野菜類		84 ゴボウ .....	77
(根菜類)		85 ダイコン .....	78
		86 葉ダイコン .....	79
		87 ニンジン .....	80
		88 ハツカダイコン .....	81
		89 レンコン .....	82
野菜類 (その他)		90 マコモタケ .....	83
		91 タケノコ .....	83
その他		92 ゴマ .....	84
		93 ヒマワリ (子実) .....	84
工芸作物		94 茶 .....	85

(作物別指針)

(グループ1)

(グループ2)

(作物名)

果樹類	かんきつ	95 温州ミカン .....	86
		96 中晩柑 .....	88
	ベリー類	97 ブルーベリー .....	89
		98 ベリー類 (ブラックベリー、食用桑)	89
		99 イチジク .....	90
	その他	100 おうとう .....	91
		101 カ キ .....	91
		102 核果類 (ウメ、スモモ、モモ) .....	92
		103 キウイフルーツ .....	92
		104 クリ .....	93
		105 クルミ .....	93
		106 ナ シ .....	94
		107 びわ .....	95
		108 ブドウ .....	95
		109 リンゴ .....	96
	花き類・観葉植物	110 未成熟パパイヤ .....	97
		111 オリーブ .....	98
112 カーネーション .....		99	
113 ガーベラ .....		99	
114 キ ク .....		100	
115 コデマリ .....		102	
116 トルコギキョウ .....		102	
117 バ ラ .....		103	

# 静岡県環境負荷低減事業活動に関する指針（農業編）

## 1 趣 旨

近年、農林産物等の生産から消費に至る食料システムを取り巻く自然環境が大きく変化する中で、農業に由来する環境への負荷の低減と生産性の向上を両立し、環境と調和のとれた食料システムの確立を図ることが、農業の持続的発展と食料の安定供給の確保の観点から重要となっています。

特に、環境と密接に関連する農林業の生産活動においては、これによって生じる環境負荷が個々の農林業者の問題にとどまらず地域全体に影響を与えるものであること、また、環境負荷の低減を図るための取組は、労働負荷の増大や収量の低下等の新たな負荷を掛けるものであることから、当該取組について、地域一体となって効果的に促進するための仕組みが必要となります。

本県においては、農地の生産力の維持増進、その他良好な営農環境を確保するため、有機質資材の施用、家畜排せつ物のリサイクル利用等土づくりを推進するとともに、化学的に合成された肥料・農薬の削減、温室効果ガス排出量削減等に関する合理的な生産方式や技術を活用し、環境と調和のとれた食料システムを確立していくこととします。

そのためには、環境と調和のとれた環境負荷低減事業活動を、できるだけ多くの農業者等が取り組むことが必要であることから、主要な農作物について、具体的活動内容を明らかにした「静岡県環境負荷低減事業活動に関する指針（農業編）」を定めます。

## 2 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

(1) 「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律」で定める環境負荷低減事業活動を構成する技術

ア 土づくりと一体的に行う、化学肥料及び化学合成農薬低減の取組

※別記様式第1号（法第19条関係）環境負荷低減事業活動の実施に関する計画のうち、「(2) 環境負荷低減事業活動の類型 a 土づくりと一体的に行う、化学肥料及び化学合成農薬低減の取組」については、下記技術ア～ウの取組全てを実施した場合、を入れること

(ア) 堆肥等施用技術

土壌有機物含有量、可給態窒素含有量、その他の土壌の性質について調査を行い、その結果に基づき、堆肥等有機質資材や緑肥作物を活用し、農地の生産力の持続性、土壌の物理的、化学的性質を良好に保ち、土壌の性質を改善する。

a 堆肥等有機質資材施用技術

堆肥等有機質資材であって、炭素窒素比（C/N比）がおおむね10から150の範囲にあるものを農地に施用する技術をいう。

b 緑肥作物利用技術

緑肥作物を栽培して、農地にすき込む技術をいう。

(イ) 化学肥料低減技術

有機質肥料の活用、化学肥料の肥効の増進、緩効性肥料の利用等を行い、化学的に合成された肥料の施用を減少させる。

a 局所施肥技術

肥料を作物の根の周辺に集中的に施用する技術をいう。ドリップ等を用いて液肥を施用する場合を含む。

水稻では、側条施肥により元肥窒素量を10~20%程度減らすことが可能であり、茶では樹冠下かん水同時施肥法を用いることで年間窒素施用量を30kg/10a程度まで減らすことが可能である。また、野菜や花きでは養液土耕により、30%程度の窒素肥料の低減が期待できる。これらの局所施肥技術を導入する場合は、土壌条件や前作の肥料残留等に留意して窒素施肥量を低減する。

b 肥効調節型肥料施用技術

肥料取締法に規定する普通肥料であって、アセトアルデヒド縮合尿素、イソブチルアルデヒド縮合尿素、オキサミド、石灰窒素、被覆複合肥料、被覆窒素肥料、被覆加里肥料、ホルムアルデヒド加工尿素肥料若しくは硫酸グアニル尿素、これらが原料として配合されたもの又は土壌中における硝酸化成を抑制する材料が使用されたものを施用する技術をいう。

元肥にこれらの緩効性肥料を使用する場合は、従来の速効性肥料の約20%の削減が可能であるため、肥効調節型肥料施用技術を導入する場合は、土壌条件や前作の肥料残留及び各作物の肥料吸収特性等に留意して窒素施肥量を低減する。

c 有機質肥料施用技術

有機質（動植物質のものに限る。）を原料として使用する肥料を施用する技術をいう。

(ウ) 化学農薬低減技術

生物農薬の利用、対抗植物の利用、有害動植物から物理的に遮る被覆技術等など、総合的に防除技術を活用することにより、化学農薬の低減を図る。

a 生物農薬利用技術

捕食性昆虫、寄生性昆虫、拮抗性細菌、拮抗糸状菌等であって、生物農薬として農薬取締法の登録を受けたものを導入する技術、これらと組み合わせてバンカー植物（天敵の増殖又は密度の維持に資する植物をいう。）を栽培する技術及び植物等を用いて土着天敵を強化するための取

組をいう。

b フェロモン剤利用技術

農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とする薬剤であつて、農薬取締法の登録を受けたものを利用する技術をいう。

c 対抗植物利用技術

土壌中の有害動植物を駆除し、又はそのまん延を防止する効果を有する植物を栽培する技術をいう。

d 被覆栽培技術

有害動植物の付着を防止するため、農作物を資材で被覆する技術をいう。

e 除草用動物利用技術

有害植物を駆除するための小動物を農地に放し飼いする技術をいう。

f マルチ栽培技術

有害動植物のまん延を防止するための資材で、土壌の表面を被覆する技術をいう。本技術にはわら類や被覆植物によるマルチ栽培も含まれる。

g 機械除草技術

有害植物（有害動物の発生を助長する植物を含む）を機械的方法により駆除する技術をいう。

h 温湯種子消毒技術

種子を温湯に浸漬することにより、当該種子に付着した有害動植物を駆除する技術をいう。

i 抵抗性品種・台木利用技術

有害動植物に対して抵抗性を持つ品種に属する農作物を栽培し、又は当該農作物を台木として利用する技術をいう。

j 熱利用土壌消毒技術

土壌に熱を加えてその温度を上昇させることにより、土壌中の有害動植物を駆除する技術をいう。具体的には、太陽熱土壌消毒技術、熱水土壌消毒技術及び蒸気土壌消毒技術である。

k 光利用技術

有害動植物を駆除し、又はそのまん延を防止するため、有害動植物を誘引し、若しくは忌避させ、又はその生理的機能を抑制する効果を有する光を利用する技術をいう。具体的には、シルバーフィルム等の反射資材、粘着資材、非散布型農薬含有テープ、黄色灯、紫外線除去フィルム、赤色光及び紫外線（UV-B）を利用する技術である。

l 土壌還元消毒技術

土壌中の酸素の濃度を低下させることにより、土壌中の有害動植物を駆除する技術をいう。

m 天然物質由来農薬利用技術

有機農産物の日本農林規格（平成17年10月27日農林水産省告示1605号）別表

2に掲げる農薬（有効成分が化学的に合成されていないものに限る。）を利用する技術をいう。

イ 温室効果ガスの排出の量の削減に資する技術

a 温室効果ガスの排出量を直接削減する技術

ほ場をはじめとした農業生産から直接発生する温室効果ガス（メタン、一酸化二窒素等）の削減に資する技術をいう。

b バイオマス燃料利用技術

動植物などから生まれた生物資源の総称である、バイオマス資源からつくられた燃料を化石燃料に代えて利活用する技術をいう。

c 省エネルギー化技術

農業生産において投入するエネルギーを効率よく使う技術をいう。エネルギーを効率よく使うことで、動力や電気のエネルギーの発電元となる化石燃料の使用を抑えることにつながり、地球温暖化の原因になっている温室効果ガスを減らすことができる。

ウ 土壌を使用しない栽培における化学肥料・化学合成農薬の施用を減少させる効果が高い技術

a 土壌を使用しない栽培において、肥料の施用に関する技術であり、化学的に合成された肥料の施用を減少させる効果が高い技術

水耕栽培や有機培地（ヤシ殻培地、ピートモス、ロックウール耕等）といった土壌を使用しない栽培方法において、化学肥料を低減する技術をいう。

b 土壌を使用しない栽培において、病害虫の防除に関する技術であり、化学的に合成された農薬の使用量を低減する技術

水耕栽培や有機培地耕（ヤシ殻培地、ピートモス、ロックウール耕等）といった土壌を使用しない栽培方法において、化学合成農薬を低減する技術をいう。

エ 家畜のふん尿に含まれる窒素、リンその他の環境への負荷の原因となる物質の量を減少させる効果が高い技術

オ 餌料の投与等により流出する窒素、リンその他の環境への負荷の原因となる物質の量を減少させる効果が高い技術

家畜への飼料給与にあたり、環境への負荷の原因となる物質である窒



素、燐等を減少させる効果が高い飼料を利用することで、排せつ物等に含まれる環境への負荷の原因となる物質を低減する技術をいう。

カ 土壌炭素貯留効果の高い土壌改良資材の農地又は採草放牧地への施用技術

光合成により、大気中から固定した炭素を多く含むバイオマス資源をほ場へ還元することで、長期間土壌に炭素を貯留することができ、温室効果ガス削減に資する技術をいう。

キ 生分解性プラスチック資材の使用その他の取組によるプラスチックの排出もしくは流出の抑制又は石油資源由来のプラスチックの使用量削減技術

a 生分解性プラスチック資材利用技術

微生物のはたらきにより、水と二酸化炭素に分解されるプラスチック資材を使用する技術をいう。

b プラスチックの排出もしくは流出の抑制または石油資源由来のプラスチックの使用量削減技術

プラスチックの排出もしくは流出の抑制を行う技術をいう。

(2) 「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律」で定める以外の県独自の技術

ア 土づくりと一体的に行う、化学肥料及び化学合成農薬低減の取組

(ア) 化学肥料低減技術

a 土壌埋設型センサー情報を活用した適正な肥培管理技術

ECセンサーを土壌中に埋設し、土壌のEC値（塩類濃度）を測定し、最適な施肥量を施用する技術をいう。

(イ) 化学農薬低減技術

a 導入天敵利用技術

海外から既に導入されている天敵を利用して害虫を駆除し、又はそのまん延を防止する技術をいう。

b 耕種的防除技術

有害動植物の増殖源となる雑草や作物残渣等を除去するなど、耕種的方法により有害動植物を駆除し、又はそのまん延・伝播を防止する技術をいう。

c 要防除水準に基づく防除要否の判断技術

要防除水準が設定されている病害虫の密度を調査し、防除の要否を判断して、過度な防除を省く技術をいう。

d 点滴かん水技術

点滴かん水装置を設置することにより、病害の発生、まん延を防止する技術をいう。

e 害虫発生予察システム（誘蛾灯）利用技術

フェロモントラップ等発生予察情報を活用して、防除回数を削減する技術をいう。

f 環状剥皮技術

キウイフルーツ花腐細菌病を防除するため、主幹部あるいは主枝に幅5～10mmで樹皮と木質部の境まで切込みを入れ、樹皮を除去する技術をいう。

g 粗皮削り

カキとナシにおいて、冬期に害虫の越冬場所となる古い樹皮を除去することにより、被害を軽減する技術をいう。

h 土着天敵活用技術

ネギアザミウマに対し、ヒメオオメとコモリグモ類は密度抑制効果があること、間作ムギには大麦品種‘百万石’が適し、麦類を間作するとこれらの土着天敵類の増加すること等、土着天敵の利用により、農薬の使用を軽減する技術をいう。

i 土壌pH矯正技術

土寄せ時の苦土石灰処理、転炉スラグ全面または植溝処理によるpH矯正により、シロネギの黒腐病菌核病の発病抑制をする技術をいう。

j 苗の蒸熱処理

イチゴ苗に対し、蒸気処理を行うことでうどんこ病、ハダニ類及びアブラムシ類を抑制する技術をいう。

### (3)有機農業

有機農業の推進に関する法律（平成18年法第112号）第2条に規定する有機農業をいう。）の取組（化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業）をいう。

なお、複数品目で申請する場合は、主要な品目を記載し計画を作成すること。

## 3 各作物別指針

対象作物として、県内の主要な農作物を選択し、117作物について導入する環境負荷低減事業活動に関する技術を示した（詳細は10頁から）。

また、「環境負荷低減事業活動に関する技術」については、「環境と調

和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律」(令和4年農林水産省令第37号)に定められた28技術(◎)に加え、県独自の11技術(☆)を示した。

#### 4 環境負荷低減事業活動の促進を図るための措置に関する事項

- (1) 農業者が環境負荷低減事業活動の導入にともなって、新たな営農用機械や資材等を整備する場合には、取組の初期段階における経営の負担軽減を図る観点から、必要に応じ、農業改良資金やその他の融資制度を積極的に活用する。
- (2) 環境負荷低減事業活動に地域全体で取り組む場合には、農林事務所による指導や実証ほの設置等による技術の確立、堆肥舎等共同利用施設の建設による生産条件の整備等を総合的に推進する。また、必要に応じて、関係補助事業を積極的に活用する。

#### 5 その他の事項

- (1) 環境負荷低減事業活動の促進を図るには、土壌診断や病害虫の発生動向の把握が重要である。このため、農林事務所、病害虫防除所及び農業団体は、必要に応じて適期に、土壌診断の実施や病害虫防除等の情報の提供を行う。
- (2) 地力増進地域において地力増進対策指針が定められている場合にあっては、環境負荷低減事業活動に取り組む農業者は同対策指針の内容に即した改善方策を行うことが必要である。
- (3) 肥料の施用量は、使用する堆肥等の窒素分量に留意する。





## 1 水稻（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ レンゲ等の利用	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術 ・ 側条施肥による施肥量の削減	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、ばか苗病
	◎ 除草用動物利用技術 ・ アイガモ栽培	雑草
	◎ マルチ栽培技術 ・ 再生紙マルチ田植機栽培	
	◎ 機械除草技術	
	◎ 温湯種子消毒技術	種子伝染性病害 イネシンガレセンチュウ
◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性品種	縞葉枯病、いもち病	

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）レンゲ茎葉部250kgは窒素成分1kgに相当する。

（注3）施肥量は土壌中の可給態窒素量を測定した上で、決定する。

（注4）肥効調節型肥料は、地域、品種等に適合したものを選定する。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 2 飼料用米

### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ レンゲ等の利用	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術 ・ 側条施肥による施肥量の削減	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、ばか苗病
	◎ 除草用動物利用技術 ・ アイガモ栽培	雑草
	◎ マルチ栽培技術 ・ 再生紙マルチ田植機栽培	
	◎ 機械除草技術	
	◎ 温湯種子消毒技術	種子伝染性病害、イネシンガレセンチュウ
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性品種	縞葉枯病、いもち病

(注1)◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

### 3 稲WCS

#### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ レンゲ等の利用	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術 ・ 側条施肥による施肥量の削減	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、ばか苗病
	◎ 除草用動物利用技術 ・ アイガモ栽培	雑草
	◎ マルチ栽培技術 ・ 再生紙マルチ田植機栽培	
	◎ 機械除草技術	
	◎ 温湯種子消毒技術	種子伝染性病害、イネシンガレセンチュウ
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性品種	縞葉枯病、いもち病

(注1)◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）



#### 4 小麦（県内全域）

##### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 機械除草技術 ・ スプリングカルチベーター	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

#### 5 ライ麦

##### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 機械除草技術 ・ スプリングカルチベーター	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 6 キビ

### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物(稲わら、麦わら等)を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	アワノメイガ
	◎ 機械除草技術	畑地雑草

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項 (5頁参照)

(3) その他の事項 (5頁参照)

## 7 トウモロコシ（子実、ポップコーン用）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	アワノメイガ
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、畑地雑草
	◎ 機械除草技術	畑地雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 8 スイートコーン（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	オオタバコガ
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 9 そば（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ レンゲ等の利用	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 機械除草技術 ・ カルチャー付きリッチャー等	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 10 大豆（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 機械除草技術 ・ カルチャー付きリッチャー等	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）堆肥等施用により土壌の化学性が確保されており、蔓化や倒伏が懸念される場合は肥料無施用でも良い。

（注3）機械除草は培土を兼ねても良い。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

ア 水田においては、基盤整備事業等を導入した排水対策が不可欠である。

## 11 小豆（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物(稲わら、麦わら等)を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 機械除草技術 ・ カルチャー付きリッチャー等	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 12 ラッカセイ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物(稲わら、麦わら等)を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 機械除草技術 ・ カルチャー付きリッチャー等	雑草
	☆ 耕種的防除技術 連作を避け、収穫後の被害株は、残さないように取り除く。	黒渋病、そうか病、 褐班病

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）機械除草は培土を兼ねても良い。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

### 13 その他の豆類（種実）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ハスモンヨトウ等
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ マルチ栽培技術 ・ 光反射マルチの利用	雑草 アブラムシ類

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

### 14 カンショ（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ハスモンヨトウ
	・ 微生物	ネコブセンチュウ
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 対抗植物利用技術	ネグサレセンチュウ
	◎ マルチ栽培技術	雑草
◎ 機械除草技術	雑草	

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）対抗植物にはマリーゴールドなどがある。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 15 サトイモ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	ハスモンヨトウ 軟腐病
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ マルチ栽培技術	雑草、アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）機械除草は生育中期までに、土寄せと同時に行う。

（注3）生育後期の畦間は刈取り除草とする。

### （2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

### （3）その他の事項（5頁参照）

ア 磐田市（旧豊田町）の灰色低地土（姫島統）の畑は作土が浅く、可給態窒素及び腐植含量が少ないことから、以下の事項に留意して管理を行うことが適当である。

（ア）作土深の確保と深層土の物理性を改善するため、深耕を行う。

（イ）腐植及び可給態窒素の蓄積を図るため、有機物や土壌改良資材を施用する。

## 16 バレイショ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	軟腐病
	◎ マルチ栽培技術	雑草、アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱	そうか病

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）畦間の雑草は中耕などにより除草する。

### （2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

### （3）その他の事項（5頁参照）

## 17 やまのいも（自然薯、ナガイモなど）（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ、シロイチモンジヨトウ
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ 骨組みを作り、防虫網被覆	鱗羽目害虫 アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ シルバーマルチ	アブラムシ類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 18 その他のいも類（キクイモ、ヤーコン(塊根)、コンニャクなど）（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 局所施肥技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
	◎ 局所施肥技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ハスモンヨトウ
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ 骨組みを作り、防虫網被覆	チョウ目害虫、アブラムシ類 コナジラミ類
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ シルバーマルチ	アブラムシ類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）



## 19 ナバナ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ
	・ 微生物	軟腐病
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ、ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ 防虫網によるトンネル被覆	鱗翅目害虫 アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 20 さいしん・油菜心（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	コナガ、ヨトウムシ、 ハスモンヨトウ、アオムシ
	・ 微生物	コナガ、軟腐病
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウスの開口部へ防虫網被覆	アブラムシ類、ハモグリバエ類、 チョウ目害虫
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱	土壌病害虫
	◎ 光利用技術 ・ シルバーマルチ	アブラムシ類
◎ 機械除草技術	雑草	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 21 ケール

### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ タマナギンウワバ
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ、ハスモンヨトウ
	◎ 機械除草技術	雑草

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

## 22 コマツナ（県内全域）

### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	コナガ、アオムシ ヨトウムシ
	・ 微生物	軟腐病 コナガ、アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ、ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る ・ 防虫網によるトンネル被覆	チョウ目害虫 ハモグリバエ類 アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
◎ 天然物質由来農薬利用技術	アオムシ、ハイマダラノメイガ、 ヨトウムシ類、ハモグリバエ類	

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

## 23 山東菜

### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	コナガ、アオムシ ヨトウムシ
	・ 微生物	軟腐病、うどんこ病 コナガ、アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ、ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る ・ 防虫網によるトンネル被覆	チョウ目害虫 ハモグリバエ類 アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	アオムシ、ハイマダラノメイガ、 ヨトウムシ類、 ハモグリバエ類、アザミウマ類

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

## 24 タアサイ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	コナガ、ヨトウムシ、アオムシ
	・ 微生物	軟腐病 コナガ、アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウスの開口部に防虫網被覆 ・ 防虫網を使ったトンネル被覆	アブラムシ類、チョウ目害虫、 コナジラミ類、ハモグリバエ類
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱	土壌病虫害
	◎ 光利用技術 ・ シルバーマルチ	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	アオムシ、ハイマダラノメイガ、 ヨトウムシ類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

25 チンゲンサイ〔施設栽培〕（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	コナガ、アオムシ 軟腐病、コナガ、アザミウマ類
	・ 天敵	ハモグリバエ類、アブラムシ類、アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ、ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る。	チョウ目害虫、アブラムシ類 ハモグリバエ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	アオムシ、ハイマダラノメイガ、ヨトウムシ類、ハモグリバエ類

（注1） ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2） 夏期は施肥量を20%削減する。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

ア 磐田市（旧豊田町）の灰色低地土（姫島統）の畑は作土が浅く、根群域の粗孔隙量が少ないため、以下の事項に留意して管理を行うことが適当である。

（ア） 作土深の確保と下層土の物理性を改善するため、深耕を行う。

## 26 てごろ菜（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術 ◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	コナガ、アオムシ ヨトウムシ
	・ 微生物	軟腐病 コナガ、アザミウマ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る ・ 防虫網によるトンネル被覆等	チョウ目害虫 アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
◎ 天然物質由来農薬利用技術	アオムシ、ハイマダラノメイガ、 ヨトウムシ類、ハモグリバエ類	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 27 ミズナ（水菜、京菜、静岡京菜など） 県内全域

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術 ◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	コナガ ヨトウムシ
	・ 微生物	コナガ
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る ・ 防虫網によるトンネル被覆等	ハモグリバエ類 アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

28 ルッコラ〔施設栽培〕（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	アブラムシ類、コナジラミ類
	・ B T 剤	ヨトウムシ類
	・ 天敵	アブラムシ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ヨトウムシ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部への防虫網設置	アブラムシ類 ヨトウムシ類
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 29 非結球レタス（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	オオタバコガ ハスモンヨトウ、ヨトウムシ 軟腐病
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 被覆栽培技術 ・ 育苗施設開口部へ防虫網被 ・ トンネル内の不織布などの二重被覆	チョウ目害虫 ナモグリバエ アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	ヨトウムシ、オオタバコガ

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）



### 30 サンチュ（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	オオタバコガ ハスモンヨトウ、ヨトウムシ 軟腐病
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部への防虫網被覆	チョウ目害虫、アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	ヨトウムシ、オオタバコガ

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

### 31 エゴマ（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 被覆栽培技術 ・ 生育初期、トンネル資材などを利用し、防虫網被覆	ヨトウムシ アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
◎ 天然物質由来農薬利用技術	アザミウマ類	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

### 32 シソ（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ヨトウムシ ハスモンヨトウ
	・ 微生物	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ トンネル等の資材を利用し、防虫網被覆	アブラムシ類 ヨトウムシ ハスモンヨトウ
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	アザミウマ類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

### 33 バジル〔施設栽培〕（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	灰色かび病 アザミウマ類、アブラムシ類
	・ B T 剤	ハスモンヨトウ
	・ 天敵	アザミウマ類、アブラムシ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部への防虫網設置	アザミウマ類、アブラムシ類 ハモグリバエ
	◎ マルチ栽培技術	灰色かび病
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草
◎ 天然物質由来農薬利用技術	アザミウマ類	

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

### 34 コリアンダー（香菜、シャンツァイ）（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ハスモンヨトウ
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部への防虫網被覆	アブラムシ類 ハスモンヨトウ
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱 ・ 蒸気	土壌病虫害
	◎ 光利用技術 ・ シルバーマルチ	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

35 セルリー〔施設栽培〕（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術。 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。 ◎ 緑肥植物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術（養液土耕等）	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 天敵 ・ 微生物	ハスモンヨトウ ヨトウムシ アブラムシ類、ハモグリバエ類、ハダニ類 軟腐病
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る	アブラムシ類、チョウ目害虫、 マメハモグリバエ
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱 ・ 熱水 ・ 蒸気	土壌病害虫、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	ハモグリバエ類、ハダニ類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

### 36 アスパラガス（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術 ◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	コナガ、アオムシ ヨトウムシ
	・ 微生物	軟腐病、うどんこ病 アザミウマ類、ハスモンヨトウ
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ、ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る ・ 防虫網によるトンネル被覆	チョウ目害虫、ハモグリバエ類 アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
◎ 天然物質由来農薬利用技術	アザミウマ類	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

### 37 食用アロエ（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術 ◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部への防虫網被覆	アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

### 38 エンサイ（クウシンサイ）〔施設栽培〕（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	アブラムシ類
	・ B T 剤	ヨトウムシ類
	・ 天敵	アブラムシ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ヨトウムシ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部への防虫網設置	アブラムシ類、ヨトウムシ類 イモキバガ
	◎ マルチ栽培技術	白さび症
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
◎ 機械除草技術	雑草	

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

- （2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）  
 （3）その他の事項（5頁参照）

### 39 カリフラワー（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	コナガ、アオムシ
	・ 微生物	ハスモンヨトウ、ヨトウムシ
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ
	◎ 機械除草技術	コナガ、ハスモンヨトウ
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

- （2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）  
 （3）その他の事項（5頁参照）

#### 40 キャベツ（県内全域）

##### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、タマナギンウワバ 軟腐病、コナガ、アオムシ
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ、ハスモンヨトウ
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 被覆栽培技術	
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	タマナギンウワバ、ヨトウムシ

（注1） ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2） 畦間は中耕などにより除草する。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

#### 41 クレソン

##### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ レンゲ等の利用	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 機械除草技術 ・ カルチャー付きリッチャー等	雑草

（注） ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）



## 42 シュンギク（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る ・ 防虫網によるトンネル被覆	チョウ目害虫、ハモグリバエ類 アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 43 ショウガ（根ショウガ）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ヨトウムシ ハスモンヨトウ
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ 防虫網によるトンネル被覆	チョウ目害虫 アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

#### 44 ショウガ（葉ショウガ）

##### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ヨトウムシ
	・ 微生物	軟腐病、うどんこ病 アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る ・ 防虫網によるトンネル被覆	チョウ目害虫 ハモグリバエ類、アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

#### 45 すみれ菜（スイゼンジナ）（県内全域）

##### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 局所施肥技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 天敵	アブラムシ類、アザミウマ類 ハダニ類
	・ B T 剤	オオタバコガ、ハスモンヨトウ
	・ 微生物	アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部への防虫網被覆 ・ 防虫網を使ったトンネル被覆	チョウ目害虫 アブラムシ類 アザミウマ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
◎ 機械除草技術	雑草	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

#### 46 タマネギ（県内全域）

##### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	軟腐病 アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）畦間の雑草は中耕などにより防除する。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

ア 牧之原市、御前崎市の沿海砂丘地帯の海成砂土（内灘統）の畑は、保肥力が小さく、養分含量が少ないことから、以下の事項に留意して管理を行う。

- （ア） 作土深の確保と下層土の物理性を改善するため、深耕を行う。
- （イ） 土壌pHを改善するため、石灰資材を施用する。
- （ウ） 保肥力を高めるため、土壌改良資材や粘土分の補給を行う。

#### 47 ツルムラサキ（県内全域）

##### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ヨトウムシ ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ トンネル等の資材を利用し、 防虫網被覆	アブラムシ類 ヨトウムシ ハスモンヨトウ
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射 資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

48 トチュウ

(1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術	
	・ B T 剤	ハスモンヨトウ
	・ 微生物	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術	アブラムシ類
	・ トンネル等の資材を利用し、防虫網被覆	ヨトウムシ ハスモンヨトウ
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
◎ 光利用技術		
・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類	
◎ 天然物質由来農薬利用技術	アザミウマ類	

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

49 ニラ

(1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ----- ・ 微生物	ヨトウムシ ハスモンヨトウ ----- アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウスによる雨よけ栽培 ・ ハウス開口部に防虫網を張る	アブラムシ類 チョウ目害虫
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	シロイチモジヨトウ、アザミウマ類

(注1) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(注2) 畦間の雑草は中耕などにより防除する。

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

50 ニンニク

(1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	ヨトウムシ ハスモンヨトウ アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	シロイチモジヨトウ、アザミウマ類

(注1) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(注2) 畦間の雑草は中耕などにより防除する。

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

ア 牧之原市、御前崎市の沿海砂丘地帯の海成砂土（内灘統）の畑は、保肥力が小さく、養分含量が少ないことから、以下の事項に留意して管理を行う。

- (ア) 作土深の確保と下層土の物理性を改善するため、深耕を行う。
- (イ) 土壌pHを改善するため、石灰資材を施用する。
- (ウ) 保肥力を高めるため、土壌改良資材や粘土分の補給を行う。

## 51 葉ニンニク

### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	ヨトウムシ ハスモンヨトウ アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウスによる雨よけ栽培 ・ ハウス開口部に防虫網を張る	アブラムシ類 チョウ目害虫
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	シロイチモジヨトウ、アザミウマ類

(注1) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(注2) 畦間の雑草は中耕などにより防除する。

### (2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

#### (3) その他の事項（5頁参照）

ア 牧之原市、御前崎市の沿海砂丘地帯の海成砂土（内灘統）の畑は、保肥力が小さく、養分含量が少ないことから、以下の事項に留意して管理を行う。

- (ア) 作土深の確保と下層土の物理性を改善するため、深耕を行う。
- (イ) 土壌pHを改善するため、石灰資材を施用する。
- (ウ) 保肥力を高めるため、土壌改良資材や粘土分の補給を行う。



52 ネギ（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

ア 白ネギ

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ
	・ 微生物	軟腐病 アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ
	◎ マルチ栽培技術	ネギアザミウマ
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	シロイチモジヨトウ
	☆ 土壌天敵活用技術	ネギアザミウマ
☆ 土壌pH矯正技術	黒腐菌核病	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

イ 葉ネギ

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ 軟腐病
	◎ フェロモン剤利用技術	シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る	ネギアブラムシ、ネギハモグリバエ、 ネギアザミウマ、チョウ目害虫
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 熱水	土壌病害虫、除草
	◎ 光利用技術 ・ 黄色灯	シロイチモジヨトウ
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	シロイチモジヨトウ

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

ア 磐田市（旧豊田町）の灰色低地土（姫島統）の畑は作土が浅く、可給態窒素及び腐植含量が少ないことから、以下の事項に留意して管理を行うことが適当である。

(ア) 作土深の確保と下層土の物理性を改善するため、深耕を行う。

(イ) 腐植及び可給態窒素の蓄積を図るため、有機物や土壌改良資材を施用する。

53 ハクサイ（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。 ◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、タマナギンウワバ
	・ 微生物	軟腐病 コナガ
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ、ハスモンヨトウ
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性品種	根こぶ病
	◎ 被覆栽培技術	チョウ目害虫、アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草
◎ 天然物質由来農薬利用技術	アオムシ、ヨトウムシ	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 54 フキ

### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	ヨトウムシ ハスモンヨトウ アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	シロイチモジヨトウ、アザミウマ類

(注1) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(注2) 畦間の雑草は中耕などにより防除する。

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

## 55 ブロッコリー（県内全域）

### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ、ヨトウムシ コナガ
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ、ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術	チョウ目害虫、アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	アオムシ

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

## 56 茎ブロッコリー（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	コナガ、アオムシ類 コナガ
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ、アオムシ類
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	アオムシ

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

ア 「茎ブロッコリー」と「ブロッコリー」は別作物であり、「茎ブロッコリー」の登録農薬は限定されているので注意する。

## 57 ホウレンソウ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 天敵	ハスモンヨトウ アブラムシ類、アザミウマ類
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性品種	べと病、萎凋病
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る ・ 防虫網によるトンネル被覆	アザミウマ類、チョウ目害虫 アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 熱水	土壌病害虫、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 58 ミョウガ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ヨトウムシ
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 59 メキャベツ（非結球タイプを含む、県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ タマナギンウワバ
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ、ハスモンヨトウ
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

60 モロヘイヤ（県内全域）

(1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

ア 施設栽培

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ハスモンヨトウ ヨトウガ
	・ 天敵	アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類
	・ 微生物	軟腐病
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る	アブラムシ類 チョウ目害虫
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
◎ 天然物質由来農薬利用技術	ハダニ類	

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

イ 露地栽培

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物導入技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ハスモンヨトウ
	・ 微生物	アザミウマ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ 生育初期、トンネル資材などを利用し、防虫網被覆	コナジラミ類 アザミウマ類
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
◎ 天然物質由来農薬利用技術	ハダニ類	

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

## 61 ラッキョウ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ マルチ栽培技術	除草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	アザミウマ類
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	アザミウマ類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 62 エシャレット（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 局所施肥技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
	◎ 局所施肥技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ マルチ栽培技術	除草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	アザミウマ類
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	アザミウマ類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）



### 63 レタス（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	オオタバコガ ハスモンヨトウ
	・ 微生物	軟腐病 オオタバコガ
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 被覆栽培技術 ・ 育苗施設開口部の防虫網被覆 ・ トンネル内不織布等二重被覆	ナモグリバエ アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
◎ 天然物質由来農薬利用技術	ヨトウムシ、オオタバコガ	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

### 64 ワケギ（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ
	・ 微生物	軟腐病、アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ
	◎ 機械除草技術	雑草
◎ 天然物質由来農薬利用技術	シロイチモジヨトウ	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

65 トウガン（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	ネコブセンチュウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ 生育初期、トンネル資材などを利用し、防虫網被覆	アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	炭そ病、雑草
	◎ 機械除草技術（生育初期）	雑草
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

66 シシトウ・トウガラシ（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	オオタバコガ
	・ 微生物	青枯病、うどんこ病、灰色かび病 アザミウマ類、コナジラミ類 ネコブセンチュウ
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 被覆栽培技術 ・ 育苗施設などの開口部への防虫網設置 ・ 生育初期、トンネル資材などを利用し、防虫網被覆	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類
	◎ マルチ栽培技術	疫病、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性台木	疫病 青枯病
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）天敵及び微生物の利用技術は施設栽培に限る。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

67 エダマメ（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ トンネル資材などを利用した防虫網被覆	アブラムシ類 ハスモンヨトウ
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

68 サヤインゲン（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ ヨトウムシ 灰色かび病、うどんこ病
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウスによる雨よけ栽培	炭疽病等
	・ ハウス開口部に防虫網を張る	アブラムシ類、ハモグリバエ類、 チョウ目害虫
	◎ マルチ栽培技術 ・ 光反射マルチの利用	アブラムシ類、ハモグリバエ類 雑草
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱 ・ 熱水	土壌伝染性病害 雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

- （2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）  
 （3）その他の事項（5頁参照）

69 サヤエンドウ（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ ヨトウムシ 灰色かび病、うどんこ病
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウスによる雨よけ栽培	こうがいかび病 褐斑病等
	・ ハウス開口部に防虫網を張る	アブラムシ類、ハモグリバエ類 チョウ目害虫
	◎ マルチ栽培技術 ・ 光反射マルチの利用	アブラムシ類、ハモグリバエ類 雑草
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱 ・ 熱水	土壌伝染性病害 雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

70 未成熟ソラマメ（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ヨトウムシ ----- 灰色かび病、うどんこ病
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウスによる雨よけ栽培 ----- ・ ハウス開口部に防虫網を張る	赤色斑点病等 ----- アブラムシ類、ハモグリバエ類、 チョウ目害虫
	◎ マルチ栽培技術 ・ 光反射マルチの利用	アブラムシ類、ハモグリバエ類 雑草
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱 ・ 熱水	土壌伝染性病害 雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	シロイチモジヨトウ、アザミウマ類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

71 イチゴ〔施設栽培〕（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術（養液土耕等）	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫類
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 天敵 ----- ・ 線虫 ----- ・ B T 剤 ----- ・ 微生物	ハダニ類、アザミウマ類 アブラムシ類、コナジラミ類 ----- ハスモンヨトウ ----- ハスモンヨトウ ----- 灰色かび病、うどんこ病、炭疽病 アザミウマ類、コナジラミ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る	チョウ目害虫、アブラムシ類、 コナジラミ類、アザミウマ類
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱	土壌病害虫、雑草
	◎ 光利用技術 ・ 黄色灯・UV-B	ハスモンヨトウ、オオタバコガ うどんこ病、ハダニ類
	◎ 土壌還元消毒技術	萎黄病、センチュウ類
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	ハダニ類、アザミウマ類
	☆ 点滴かん水技術（碓氷イチゴ）	炭疽病、角斑細菌病
	☆ 苗の蒸熱処理	うどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）緑肥作物はソルガムなどがある。

（注3）天敵の放飼は害虫発生のごく初期に行う。天敵防除に当たっては天敵に影響の少ない化学農薬を使用する。

（注4）畦間は中耕などにより除草する。畦間にモミガラなどの被覆資材を敷く。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）



## 72 オクラ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物 ----- ・ B T 剤	うどんこ病 ネコブセンチュウ ----- ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 被覆栽培技術 ・ 育苗施設などの開口部への防虫網設置 ・ 生育初期、トンネル資材などを利用し、防虫網被覆	ハスモンヨトウ オオタバコガ アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	葉すす病
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

### 73 カボチャ（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

##### ア トンネル栽培

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	ウリノメイガ アザミウマ類、コナジラミ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ トンネルの生育初期密閉や育苗施設等の開口部への防虫網被覆	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類
	◎ マルチ栽培技術 ・ 害虫に対しては光反射マルチを利用	炭疽病、疫病、べと病 アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

##### イ 露地栽培

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	うどんこ病、灰色かび病 アザミウマ類、コナジラミ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ 育苗施設などの開口部への防虫網設置 ・ 生育初期、トンネル資材などを利用し、防虫網被覆	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類
	◎ マルチ栽培技術	たんそ病、疫病、べと病、雑草
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
◎ 機械除草技術	雑草	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

74 キュウリ

(1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

ア 施設栽培（県内全域）

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術（養液土耕等）	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	オオタバコガ ウリノメイガ
	・ 天 敵	コナジラミ類、アザミウマ類、 アブラムシ類、ハモグリバエ類、ハダニ類
	・ 微生物	灰色かび病、うどんこ病 アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類 ネコブセンチュウ
	◎ 対抗植物利用技術	センチュウ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る	チョウ目害虫、アブラムシ類、 コナジラミ類、アザミウマ類
	◎ マルチ栽培技術	べと病、菌核病等、雑草
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性台木	つる割病、疫病
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱 ・ 蒸気	土壌病害虫、雑草
	◎ 土壌還元消毒技術	ネコブセンチュウ類
◎ 機械除草技術	雑草	
◎ 天然物質由来農薬利用技術	アザミウマ類、ハモグリバエ類、 ウリノメイガ、ハダニ類	

(注1) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(注2) 天敵の放飼は害虫発生のごく初期に行う。天敵防除に当たっては天敵に影響の少ない化学農薬を使用する。

(注3) 対抗植物にはマリーゴールド等がある。

イ 露地栽培

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	うどんこ病 アザミウマ類、コナジラミ類
	・ B T 剤	ヨトウムシ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ 育苗施設などの開口部への防虫網設置	ヨトウムシ類 アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	べと病、疫病、炭疽病、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類

(注1) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(注2) 天敵の放飼は害虫発生のごく初期に行う。天敵防除に当たっては天敵に影響の少ない化学農薬を使用する。

(注3) 対抗植物にはマリーゴールド等がある。

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項 (5頁参照)

(3) その他の事項 (5頁参照)

75 スイカ〔トンネル栽培〕（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	オオタバコガ、シロイチモジヨトウ ウリノメイガ ----- アザミウマ類、コナジラミ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ トンネルの生育初期密閉や開口部への防虫網被覆	アブラムシ類、コナジラミ類、 アザミウマ類、チョウ目害虫他
	◎ マルチ栽培技術	炭疽病、菌核病等、雑草
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性台木	つる割病
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	ハダニ類、ミナミキイロアザミウマ

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

76 ズッキーニ（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	うどんこ病 アザミウマ類、コナジラミ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ 育苗施設などの開口部への防虫網設置 ・ 生育初期、トンネル資材などを利用し、防虫網被覆	アザミウマ類 コナジラミ類 アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	炭疽病、べと病、疫病、雑草
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

77 トマト（県内全域）

(1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

ア 施設栽培（促成栽培、抑制栽培、無加温）

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術（養液土耕等）	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ハスモンヨトウ オオタバコガ
	・ 天 敵	コナジラミ類、アブラムシ類、 ハモグリバエ類、アザミウマ類、ハダニ類
	・ 微生物	灰色かび病、うどんこ病、青枯病、 ネコブセンチュウ アザミウマ類、コナジラミ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 対抗植物利用技術	センチュウ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る。	アブラムシ類、アザミウマ類、 コナジラミ類、ハモグリバエ類 チョウ目害虫
	◎ マルチ栽培技術	疫病、灰色かび病
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性品種	萎凋病、青枯病、葉かび病、 ネコブセンチュウ 黄化葉巻病(TYLCV)
	・ 抵抗性台木	萎凋病、根腐萎凋病、青枯病、褐色根腐病 ネコブセンチュウ
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱 ・ 熱水 ・ 蒸気	土壌病虫害、雑草
	◎ 光利用技術 ・ 黄色灯	ハスモンヨトウ オオタバコガ
	◎ 土壌還元消毒技術	褐色根腐病、根腐萎凋病、 ネコブセンチュウ類
◎ 機械除草技術	雑草	
◎ 天然物質由来農薬利用技術	オオタバコガ、ハモグリバエ類 トマトサビダニ	

(注1) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(注2) 天敵の放飼は害虫発生のごく初期に行う。天敵防除に当たっては天敵に影響の少ない化学農薬を使用する。

イ 施設栽培ミニトマト（中玉含む・促成栽培）

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術（養液土耕等）	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病害虫等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ハスモンヨトウ オオタバコガ
	・ 天 敵	コナジラミ類、ハモグリバエ類 アブラムシ類、ハダニ類
	・ 微生物	うどんこ病、灰色かび病、青枯病 アザミウマ類、コナジラミ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 対抗植物利用技術	センチュウ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る。	アザミウマ類、コナジラミ類、 ハモグリバエ類、チョウ目害虫
	◎ マルチ栽培技術	疫病、灰色かび病
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性品種	萎凋病、青枯病 葉かび病
	・ 抵抗性台木	萎凋病、根腐萎凋病 青枯病、褐色根腐病
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱 ・ 蒸気	土壌病害虫、雑草
	◎ 光利用技術 ・ 黄色灯	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 土壌還元消毒技術	褐色根腐病、根腐萎凋病 ネコブセンチュウ類
	◎ 機械除草技術	雑草
◎ 天然物質由来農薬利用技術	トマトサビダニ	

(注1) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(注2) 天敵の放飼は害虫発生のごく初期に行う。天敵防除に当たっては天敵に影響の少ない化学農薬を使用する。



ウ 露地栽培

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ハスモンヨトウ オオタバコガ
	・ 微生物	灰色かび病、うどんこ病、葉かび病 青枯病 アザミウマ類、コナジラミ類 ネコブセンチュウ
	◎ 対抗植物利用技術	センチュウ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ 育苗施設などの開口部への防虫網設置	アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類、ハモグリバエ類
	◎ マルチ栽培技術	疫病、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性品種	葉かび病、青枯病、萎凋病 ネコブセンチュウ
	・ 抵抗性台木	青枯病、萎凋病、 ネコブセンチュウ
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
◎ 天然物質由来農薬利用技術	トマトサビダニ	

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

エ 露地栽培ミニトマト（中玉含む）

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ----- ・ 微生物	ハスモンヨトウ オオタバコガ うどんこ病、灰色かび病、青枯病 アザミウマ類、コナジラミ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 対抗植物利用技術	センチュウ類
	◎ マルチ栽培技術	疫病、灰色かび病
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性品種 ----- ・ 抵抗性台木	萎凋病、青枯病 葉かび病 萎凋病、根腐萎凋病 青枯病、褐色根腐病
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱 ・ 蒸気	土壌病虫害、雑草
	◎ 土壌還元消毒技術	褐色根腐病、根腐萎凋病、 ネコブセンチュウ類
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	トマトサビダニ

(注1)◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(注2)天敵の放飼は害虫発生のごく初期に行う。天敵防除に当たっては天敵に影響の少ない化学農薬を使用する。

- (2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）  
 (3) その他の事項（5頁参照）

78 ナス（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

ア 施設栽培

区分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術（養液土耕等）	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ----- ・ 天敵 ----- ・ 微生物	オオタバコガ ハスモンヨトウ ----- アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類、 ハモグリバエ類、アブラムシ類 ----- 灰色かび病、アブラムシ類、アザミウマ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 対抗植物利用技術	センチュウ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る	アザミウマ類、コナジラミ類、 ハモグリバエ類、チョウ目害虫
	◎ マルチ栽培技術	疫病、灰色かび病、褐色腐敗病、 アブラムシ類、雑草
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性台木	青枯病、半身萎凋病 褐色腐敗病
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱 ・ 蒸気	土壌病虫害、雑草
	◎ 光利用技術 ・ 黄色灯	ハスモンヨトウ オオタバコガ
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	オオタバコガ、アザミウマ類、ハダニ類

（注1） ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2） 天敵の放飼は害虫発生のごく初期に行う。天敵防除に当たっては天敵に影響の少ない化学農薬を使用する。

（注3） 対抗植物にはクロタラリア、ギニアグラス等がある。

イ 露地栽培

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ハスモンヨトウ オオタバコガ
	・ 微生物	灰色かび病、青枯病、 アザミウマ類、ネコブセンチュウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ 育苗施設などの開口部への防虫網設置 ・ トンネル資材などを利用し、防虫網被覆	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類
	◎ マルチ栽培技術	疫病、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性台木	青枯病 半身萎凋病
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	オオタバコガ、アザミウマ類、 ハダニ類

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項 (5頁参照)

(3) その他の事項 (5頁参照)

79 ニガウリ（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ヨトウムシ類 オオタバコガ
	・ 微生物	うどんこ病 アザミウマ類
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

80 ピーマン（施設栽培および露地栽培）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術（養液土耕等）	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ハスモンヨトウ オオタバコガ
	・ 天敵（施設のみ）	コナジラミ類、アブラムシ類、 ハモグリバエ類、アザミウマ類、ハダニ類
	・ 微生物	灰色かび病、うどんこ病、青枯病 ネコブセンチュウ アザミウマ類、コナジラミ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 対抗植物利用技術	センチュウ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る。	アブラムシ類、アザミウマ類 コナジラミ類、ハモグリバエ類、 チョウ目害虫
	◎ マルチ栽培技術	疫病、灰色かび病
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性品種	萎凋病、青枯病、葉かび病、 ネコブセンチュウ
	・ 抵抗性台木	萎凋病、根腐萎凋病、青枯病、褐色根腐病 ネコブセンチュウ
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 太陽熱 ・ 熱水 ・ 蒸気	土壌病虫害、雑草
	◎ 光利用技術 ・ 黄色灯	ハスモンヨトウ オオタバコガ
	◎ 土壌還元消毒技術	褐色根腐病、根腐萎凋病 ネコブセンチュウ類
	◎ 機械除草技術	雑草
◎ 天然物質由来農薬利用技術	オオタバコガ、ハモグリバエ類	

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）天敵の放飼は害虫発生のごく初期に行う。天敵防除に当たっては天敵に影響の少ない化学農薬を使用する。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

81 マクワウリ（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物 ・ B T 剤	うどんこ病、ネコブセンチュウ アザミウマ類、コナジラミ類 ヨトウムシ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ 育苗施設などの開口部への防虫網設置 ・ 生育初期、トンネル資材などを利用し、防虫網被覆 ・ 定植直後のキャップ被覆	ヨトウムシ類 アブラムシ類 ウリハムシ
	◎ マルチ栽培技術	べと病、疫病、炭疽病、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

82 温室メロン〔施設栽培〕（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、わら堆肥又は切りわら等を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 天敵 ・ B T 剤	アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類、ハダニ類
	・ 微生物	オオタバコガ、ワタヘリクロノメイガ うどんこ病、ネコブセンチュウ アザミウマ類、コナジラミ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ 施設開口部に防虫網を張る。	アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類、ウリハムシ、チョウ目害虫
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性品種	つる割病
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 蒸気	つる割病、疫病、黒点根腐病、毛根病、苗立枯病
	◎ 光利用技術 ・ 赤色光照射	ミナミキイロアザミウマ
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	ハダニ類、 トマトハモグリバエ、アザミウマ類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）



### 83 カブ（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥植物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ 軟腐病、コナガ
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ、ハスモンヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ トンネルやハウス開口部への防虫網被覆	鱗翅目害虫 アブラムシ類 キスジノミハムシ
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 対抗植物利用技術 クロタラリア、ギニアグラス等	ネコブセンチュウ

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

### 84 ゴボウ（県内全域）

#### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物線虫防除剤	ネコブセンチュウ
	◎ 対抗植物利用技術	ネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ 防虫網を使ったトンネル被覆	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）対抗植物にはネコブセンチュウに対するマリーゴールドやネグサレセンチュウに対するクロタラリア・ギニアグラスなどがある。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

85 ダイコン（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物導入技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ 軟腐病、コナガ
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ、ハスモンヨトウ
	◎ 対抗植物利用技術	キタネグサレセンチュウ
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 被覆栽培技術 ・ ベたがけ	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	アオムシ

（注1） ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2） 対抗植物は、マリーゴールド、ステリリスエンバクなどがあり、緑肥作物としても利用できる。

（注3） 畦間は中耕などにより除草する。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

ア 牧之原市、御前崎市の沿海砂丘地帯の海成砂土（内灘統）の畑は保肥力が小さく、養分含量が少ないことから、以下の事項に留意して管理を行うことが適当である。

- (ア) 作土深の確保と下層土の物理性を改善するため、深耕を行う。
- (イ) 土壌 pH の改善を行うため、石灰質資材を施用する。
- (ウ) 保肥力を高めるため、土壌改良資材や粘土分の補給を行う。
- (エ) 岐根発生防止のため、有機物施用は前作に行う。

86 葉ダイコン〔施設栽培〕（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	アブラムシ類、コナガ
	・ B T 剤	コナガ
	・ 天敵	アブラムシ類
	◎ フェロモン剤利用技術	コナガ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部への防虫網設置	アブラムシ類
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

87 ニンジン（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	ハスモンヨトウ ヨトウムシ 軟腐病
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	◎ 対抗植物利用技術	ネグサレセンチュウ
	◎ 被覆栽培技術	チョウ目害虫、アブラムシ類
	◎ マルチ栽培技術	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）対抗植物にはマリーゴールドなどがある。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

ア 牧之原市、御前崎市の沿海砂丘地帯の海成砂土（内灘統）の畑は保肥力が小さく、養分含量が少ないことから、以下の事項に留意して管理を行うことが適当である。

- （ア） 作土深の確保と下層土の物理性を改善するため、深耕を行う。
- （イ） 土壌PHの改善を行うため、石灰質資材を施用する。
- （ウ） 保肥力を高めるため土壌改良資材や粘土分の補給を行う。

88 ハツカダイコン〔施設栽培〕（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	アブラムシ類、コナガ
	・ B T 剤	ヨトウムシ類、コナガ
	・ 天敵	アブラムシ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ヨトウムシ類、コナガ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部への防虫網設置	アブラムシ類 ヨトウムシ類
	◎ 光利用技術 ・ シルバーフィルムなどの反射資材、粘着資材	アブラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

89 レンコン（県内全域）

（1）導入すべき持続性の高い農業生産方式の内容

区 分	環境負荷低減事業活動を構築する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	ハスモンヨトウ
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ
	☆ 耕種的防除 常時湛水してフザリウム属菌の感染、増殖を防ぐ。 イネネクイハムシ被害残渣を適切に処分する。	腐敗病

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 90 マコモタケ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）畦間の雑草は中耕などにより防除する。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

ア 牧之原市、御前崎市の沿海砂丘地帯の海成砂土（内灘統）の畑は、保肥力が小さく、養分含量が少ないことから、以下の事項に留意して管理を行う。

（ア）作土深の確保と下層土の物理性を改善するため、深耕を行う。

（イ）土壌pHを改善するため、石灰資材を施用する。

（ウ）保肥力を高めるため、土壌改良資材や粘土分の補給を行う。

## 91 タケノコ〔露地普通〕（県内全域）

### （1）導入すべき持続性の高い農業生産方式の内容

区 分	環境負荷低減事業活動を構築する技術	
たい肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 局所施肥技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害
	◎ 機械除草技術	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）肥効調節型肥料は効果の持続性が高い反面、効果が遅れるため施肥時期は早めにする。

また、低温期は溶出が悪く肥効は鈍る。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 92 ゴマ(子実)

### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤	タバコガ
	◎ 機械除草技術	雑草

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

## 93 ヒマワリ（子実）（県内全域）

### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

(注1) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(注2) 畦間の雑草は中耕などにより防除する。

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

ア 牧之原市、御前崎市の沿海砂丘地帯の海成砂土（内灘統）の畑は、保肥力が小さく、養分含量が少ないことから、以下の事項に留意して管理を行う。

(ア) 作土深の確保と下層土の物理性を改善するため、深耕を行う。

(イ) 土壌pHを改善するため、石灰資材を施用する。

(ウ) 保肥力を高めるため、土壌改良資材や粘土分の補給を行う。



94 茶（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、または粗大有機物（稲わら、刈落とし枝葉、茶草場農法での山草等）を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術 ・ 施肥位置（樹冠下施肥、深層施肥）や肥料形態を考慮した施肥技術の活用	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術 ・ 被覆肥料、緩効性肥料、硝化抑制剤肥料等の有効活用	
	◎ 有機質肥料施用技術	
	☆ 土壌埋設型センサー情報を活用した適正な肥培管理	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ B T 剤 ・ 微生物	チャハマキ、チャノコカクモンハマキ、ヨモギエダシヤク チャノコカクモンハマキ、チャハマキ
	◎ フェロモン剤利用技術	チャハマキ、チャノコカクモンハマキ
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術 ・ 抵抗性品種	クワシロカイガラムシ、炭疽病、輪斑病、もち病
	☆ 要防除水準に基づく防除要否の判断	チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノホソガ、カンザワハダニ、炭疽病、もち病
	☆ 耕種的防除技術 ・ 二番茶摘採後のせん枝技術	炭疽病、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	チャノキイロアザミウマ、カンザワハダニ、炭疽病

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）うね間を施肥時期毎に機械除草することによって、施肥後の肥効向上を図る。

（注3）過度の深耕・中耕は、土壌流亡を助長することがあるので、敷草などでうね間をマルチする必要がある。

（注4）茶樹の更新、整枝等による枝条等の還元も有機物として評価可能である。

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

ア ECセンサーや害虫発生予察システムのネットワークが整備されている地域は、これらを積極的に活用する。

イ 集団的に栽培されている茶園への施肥が環境に及ぼす影響は大きく、吸収時期に合わせた適正な肥培管理や肥効調節型肥料の活用に留意する。

95 温州ミカン（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

ア 露地栽培

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術 ◎ 肥効調整型肥料施用技術 ・ 被覆複合肥料による年1回施肥技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	ゴマダラカミキリ、灰色かび病
	・ BT剤	ハマキムシ類、ケムシ類
	・ 植物等を用いた土着天敵強化	ミカンハダニ、ミカンサビダニ
	◎ マルチ栽培技術 ・ 光反射シートによる全面被覆 ・ ナギナタガヤ等による草生栽培	・ アザミウマ類、雑草 ・ 雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ 炭酸カルシウム微粉末剤利用	チャノキイロアザミウマ
	☆ 導入天敵利用技術 ・ ヤノネイロコバチ、ヤノネツヤコバチ	ヤノネカイガラムシ
	・ ルビーアカヤドリコバチ	ルビーロウムシ
	・ ベダリアテントウムシ	イセリアカイガラムシ
	・ シルベストリコバチ	ミカントゲコナジラミ
☆ 要防除水準に基づく防除要否の判断	ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	
◎ 天然物質由来農薬利用技術	チャノキイロアザミウマ、ミカンハダニ、ミカンサビダニ、ミカンハモグリガ、そうか病、黒点病	

（注） ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

イ 施設栽培（ハウスミカン）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術 ◎ 肥効調整型肥料施用技術 ・ 被覆複合肥料による年1回施肥技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物	ゴマダラカミキリ、灰色かび病
	・ BT剤	ハマキムシ類、ケムシ類
	・ 天敵	ハダニ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る	カメムシ類、アザミウマ類、アブラムシ類、カミキリムシ類、鱗翅目害虫等
	◎ マルチ栽培技術 ・ 光反射シートの全面被覆	アザミウマ類、雑草
	☆ 導入天敵利用技術 ・ ヤノネカイゴハチ、ヤノネツコハチ	ヤノネカイガラムシ
	・ ルビーアカヤドリコバチ	ルビーロウムシ
	・ ベダリアテントウムシ	イセリアカイガラムシ
	・ シルベストリコバチ	ミカントゲコナジラミ
☆ 要防除水準に基づく防除要否の判断	ミカンハダニ、チャノキイロアザミウマ	
◎ 天然物質由来農薬利用技術	チャノキイロアザミウマ、ミカンハダニ、ミカンハモグリガ、ミカンサビダニ、そうか病、黒点病	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

ア 天敵による防除を実施しようとする農業者等は、果樹研究センター及び農林事務所から、その有効な利用方法の指導を受ける。

96 中晩柑類（県内全域）

(1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動を構築する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術 ◎ 肥効調整型肥料施用技術 ・ 被覆複合肥料による年1回施肥技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物 ・ 植物等を用いた土着天敵強化	ゴマダラカミキリ ミカンハダニ、ミカンサビダニ
	◎ マルチ栽培技術 ・ ナギナタガヤ等の草生栽培 ・ 敷ワラ	雑草、褐色腐敗病
	◎ 被覆栽培技術 ・ 屋根かけ栽培、 ・ 無加温施設栽培	かいよう病、黒点病
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ 炭酸カルシウム微粉末剤利用	チャノキイロアザミウマ
	☆ 導入天敵利用技術 ・ ヤノネキイロコバチ ・ ヤノネツヤコバチ	ヤノネカイガラムシ
	要防除水準に基づく防除要否の判断	チャノキイロアザミウマ
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	チャノキイロアザミウマ、ミカンハダニ、ミカンハモグリガ、ミカンサビダニ、かいよう病、黒点病

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

被覆栽培技術の対象中晩柑類は、ネーブルオレンジ、ポンカン、不知火、せとか、レモン

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

ア 天敵による防除を実施しようとする農業者等は、果樹研究センター及び農林事務所から、その有効な利用方法の指導を受ける。

97 ブルーベリー（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 天敵製剤	ヒメコガネ幼虫
	・ 微生物製剤	灰色かび病、斑点病
	・ BT剤	イラガ類
	◎ 被覆栽培技術	大型害虫、鳥害
	◎ マルチ栽培技術	雑草
◎ 機械除草技術	雑草	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

98 ベリー類（ブラックベリー、食用桑）（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術	カミキリムシ類（食用桑）
	◎ 被覆栽培技術 ・ 雨よけ栽培 ・ 防鳥・防虫ネット	大型害虫、鳥害、菌核病（食用桑）
	◎ マルチ栽培技術	雑草（食用桑）
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

99 イチジク（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

ア 露地栽培

区 分	環境負荷低減事業活動を構築する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物製剤	カミキリムシ類、キボシカミキリ幼虫、ネコブセンチュウ
	◎ マルチ栽培技術 ・ 光反射シートの全面被覆	雑草、アザミウマ類
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	アザミウマ類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

イ 施設栽培

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 天敵製剤	カンザワハダニ
	・ 微生物製剤	キボシカミキリ幼虫、カミキリムシ類、ネコブセンチュウ
	◎ マルチ栽培技術 ・ 光反射シートによる全面被覆	雑草、アザミウマ類
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術	株枯病
◎ 天然物質由来農薬利用技術	アザミウマ類	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 100 おうとう（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動を構築する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物製剤 ・ BT剤	灰星病 ハマキムシ類
	◎ フェロモン剤利用技術	コスカシバ、ハマキムシ類
	◎ マルチ栽培技術 ・ ナギナタガヤ等による草生栽培	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 被覆栽培技術 ・ 雨よけ栽培を行う ・ 開口部に防鳥ネットを張る。	灰星病、黒斑病、炭そ病、せん孔病 鳥害
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	ハダニ類、黒点病、せん孔病

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 101 カキ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動を構築する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害
	◎ 生物農薬利用技術 ・ BT剤	ハマキムシ類、ケムシ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ヒメコスカシバ
	☆ 粗皮削り	ヒメコスカシバ
	◎ マルチ栽培技術 ・ 光反射シートによる被覆 ・ ナギナタガヤ等による草生栽培	・ アザミウマ類、雑草 ・ 雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 102 核果類（ウメ、モモ、スモモ）（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動を構築する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ BT剤	ケムシ類
	◎ フェロモン剤利用技術	コスカシバ、ハマキムシ類、モモハモグリガ、モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ
	◎ マルチ栽培技術 ・ ナギナタガヤ等による草生栽培	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ 黄色灯	夜蛾類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 103 キウイフルーツ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動を構築する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害
	◎ マルチ栽培利用技術 ・ ナギナタガヤ等による草生栽培	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	☆ 環状剥皮技術	花腐細菌病

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）



## 104 クリ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ マルチ栽培技術 (草生栽培を含む)	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 抵抗性品種・台木利用技術	クリタマバチ
	☆ 耕種的防除技術 ・ 病患部の削り取り、病枝の切除、幼虫の刺殺、群生加害葉の摘除、落葉の処分	胴枯病、クスサン、アブラムシ類、カミキリムシ、うどんこ病、黒色実ぐされ病

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

## 105 クルミ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術	カミキリムシ類、ケムシ類
	◎ マルチ栽培技術（草生栽培）	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

106 ナシ（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

ア 露地栽培

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物製剤	黒星病、黒斑病
	◎ フェロモン剤利用技術	ハマキムシ類、ナシヒメシクイ
	◎ マルチ栽培技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等の草生栽培	雑草
	◎ 被覆栽培技術 ・ 防虫網 ・ 袋かけ	カメムシ類、吸蛾類、鳥類
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 光利用技術 ・ 黄色灯	夜蛾類
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	ハダニ類、ニセナシサビダニ

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

イ 施設栽培（ハウスナシ）

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ フェロモン剤利用技術	ハマキムシ類、ナシヒメシクイ
	◎ マルチ栽培技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等の草生栽培	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	ハダニ類、ニセナシサビダニ

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

## 107 びわ

### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 被覆栽培技術 ・ 雨よけ、袋掛け	灰斑病、ごま色斑点病、モモチョッキリゾウムシ、鳥類
	◎ マルチ栽培技術 ・ 光反射シート、ワラ等による被覆 ・ ナギナタガヤ等による草生栽培	・ 雑草、カイガラムシ類
	◎ 機械除草技術	雑草

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項 (5頁参照)

(3) その他の事項 (5頁参照)

## 108 ブドウ〔施設栽培〕(県内全域)

### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動を構築する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物製剤	灰色かび病、うどんこ病
	◎ マルチ栽培技術 ・ ナギナタガヤ等による草生栽培	雑草
	◎ 被覆栽培技術 ・ 防虫網 ・ 袋かけ	カメムシ類 コガネムシ類、鳥類
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	ハダニ類、べと病、さび病

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項 (5頁参照)

(3) その他の事項 (5頁参照)

109 リンゴ

(1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動を構築する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害
	◎ 生物農薬利用技術 ・ BT剤	ハマキムシ類
	◎ フェロモン剤利用	シンクイムシ類、ハマキムシ類
	◎ マルチ栽培技術 ・ 草生栽培	雑草、ダニ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ ネット掛け栽培	ヤガ、鳥害 カメムシ類等
	◎ 機械除草技術	雑草
	☆ 要防除水準に基づく防除要否の判断	赤星病、斑点落葉病等
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	ハマキムシ類、キンモンホソガ、モモシンクイガ、斑点落葉病、すす病

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項 (5頁参照)

(3) その他の事項 (5頁参照)

ア 天敵による防除を実施しようとする農業者等は、果樹研究センター及び農林事務所から、その有効な利用方法の指導を受ける。

## 110 未成熟パパイヤ

### (1) 導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

#### ア 露地栽培

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ マルチ栽培技術（草生栽培）	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

#### イ 無加温ハウス

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 天敵製剤	ハダニ類
	◎ マルチ栽培技術（草生栽培）	雑草
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る。	ヒラタカタカイガラムシ ナガカタカイガラムシ
	◎ 機械除草技術	雑草

(注) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

(3) その他の事項（5頁参照）

## 111 オリーブ（県内全域）

### （1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動を構築する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、ワラ、山草、落ち葉等の有機物を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術 ・ライ麦、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤ等草生栽培	
化学肥料低減技術	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害
	◎ 生物農薬利用技術 ・B T剤	オリーブアナアキゾウムシ幼虫 ハマキムシ類
	◎ マルチ栽培技術 ・草生栽培	雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

### 112 カーネーション（県内全域）

#### （１）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・バーク堆肥、ピートモス、ヤシガラ等を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術（養液土耕）	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ハウス開口部に防虫網を張る	チョウ目害虫、アブラムシ類、アザミウマ類、クロウリハムシ
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・熱水 ・蒸気	土壌病虫害 雑草
	◎ 光利用技術 ・黄色灯	ヨトウムシ類 オオタバコガ

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（２）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（５頁参照）

（３）その他の事項（５頁参照）

### 113 ガーベラ〔施設栽培〕（県内全域）

#### （１）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術（養液土耕）	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ
	◎ 生物農薬利用技術 ・天敵	ハダニ類
	◎ 被覆栽培技術 ・ハウス開口部に防虫網を張る	チョウ目害虫、アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類、マメハモグリバエ
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・蒸気	半身萎凋病
◎ 光利用技術 ・黄色灯	ハスモンヨトウ オオタバコガ	

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（２）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（５頁参照）

（３）その他の事項（５頁参照）

114 キク（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

ア 施設栽培

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術（養液土耕）	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・ 微生物 ・ B T 剤	根頭がんしゅ病 ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 対抗植物利用技術	ネグサレセンチュウ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る	鱗翅目害虫、アザミウマ類、アブラムシ類、マメハモグリバエ
	◎ マルチ栽培技術	白さび病等、雑草
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 熱水 ・ 蒸気	半身萎凋病、立枯病
	☆ 耕種的防除技術 ・ 施設内、周囲の除草	ミカンキイロアザミウマ
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	アザミウマ類、オオタバコガ マメハモグリバエ、ナミハダニ

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）対抗植物にはマリーゴールド等がある。



イ 露地栽培

区 分	環境負荷低減事業活動の内容	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対 象 病 害 虫
	◎ 生物農薬利用技術	根頭がんしゅ病 ミカンキイロアザミウマ、オオタバコガ、 マメハモグリバエ、ナミハダニ
	・ 微生物	-----
	・ B T 剤	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 対抗植物利用技術	ネグサレセンチュウ
	◎ マルチ栽培技術	白さび病等、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 熱水 ・ 蒸気	半身萎凋病、立枯病
	☆ 耕種的防除技術 ・ 親株の整理と残花処理 ・ ほ場内、周囲の除草	ミカンキイロアザミウマ
◎ 天然物質由来農薬利用技術	アザミウマ類、オオタバコガ、 マメハモグリバエ、ナミハダニ	

(注1) ◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

☆：県が定めた環境負荷低減事業活動に係る技術

(注2) 対抗植物にはマリーゴールド等がある。

(2) 環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項 (5頁参照)

(3) その他の事項 (5頁参照)

### 115 コデマリ（県内全域）

#### （１）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに、土壌物理性を改善するため、完熟堆肥、又は粗大有機物（稲わら、麦わら等）を施用する。	
	◎ 緑肥作物利用技術	
化学肥料低減技術	◎ 局所施肥技術	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ マルチ栽培技術	アブラムシ類、雑草
	◎ 機械除草技術	雑草

（注1）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（注2）畦間の雑草は中耕などにより防除する。

（２）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（５頁参照）

（３）その他の事項（５頁参照）

ア 牧之原市、御前崎市の沿海砂丘地帯の海成砂土（内灘統）の畑は、保肥力が小さく、養分含量が少ないことから、以下の事項に留意して管理を行う。

（ア） 作土深の確保と下層土の物理性を改善するため、深耕を行う。

（イ） 土壌pHを改善するため、石灰資材を施用する。

（ウ） 保肥力を高めるため、土壌改良資材や粘土分の補給を行う。

### 116 トルコギキョウ〔施設栽培〕（県内全域）

#### （１）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・ 土壌の腐植を増加させ、保肥力を高めるとともに土壌物理性を改善するため、完熟堆肥を施用する。	
	◎ 局所施肥技術（養液土耕）	
化学肥料低減技術	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
	導入する個別技術	対象病虫害等
化学農薬低減技術	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 被覆栽培技術 ・ ハウス開口部に防虫網を張る	チョウ目害虫、アザミウマ類、アブラムシ類
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・ 熱水 ・ 蒸気	菌核病、茎腐病、白絹病
	◎ 光利用技術 ・ 黄色灯	ハスモンヨトウ、オオタバコガ

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（２）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（５頁参照）

（３）その他の事項（５頁参照）

117 バラ〔施設栽培〕（県内全域）

（1）導入すべき環境負荷低減事業活動の内容

区 分	環境負荷低減事業活動に関する技術	
堆肥等施用技術	◎ 堆肥等有機質資材施用技術 ・バーク堆肥、ピートモス、ヤシガラ等を施用する。	
化学肥料低減技術	◎ 局所施用技術（養液土耕）	
	◎ 肥効調節型肥料施用技術	
	◎ 有機質肥料施用技術	
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等
	◎ 生物農薬利用技術 ・微生物 ・天敵	根頭がんしゅ病 ハダニ類
	◎ フェロモン剤利用技術	ハスモンヨトウ、オオタバコガ
	◎ 被覆栽培技術 ・ハウス開口部に防虫網を張る	チョウ目害虫、アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類、コガネムシ類、ゾウムシ類
	◎ 熱利用土壌消毒技術 ・熱水 ・蒸気	半身萎凋病
	◎ 光利用技術 ・黄色灯	ハスモンヨトウ オオタバコガ
	◎ 天然物質由来農薬利用技術	ハダニ類

（注）◎：農林水産省令で定められた環境負荷低減事業活動に係る技術

（2）環境負荷低減事業活動の導入の促進を図るための措置に関する事項（5頁参照）

（3）その他の事項（5頁参照）

(別冊)

静岡県環境負荷低減事業活動に関する指針(農業編)

## 各資材の使用の目安

令和5年12月

静岡県

参考資料 静岡県環境負荷低減事業活動に関する指針（農業編）に係る各資材の使用の目安

※ 使用する堆肥等の窒素成分量に留意し、総窒素成分量が「窒素成分量の目安」欄の数値を超えないようにする。

※ 局所施肥技術、肥効調節型肥料施用技術を導入する場合は、土壌条件や前作の肥料残留等に留意して施肥量の低減を図る。

No	作物名	作型等	堆肥等施用技術	化学肥料低減技術	化学農薬低減技術
			施用量の目安（10aあたり）	窒素成分量の目安（10aあたり）※	慣行に対する化学農薬延べ散布回数 の低減の目安
1	水稲（県内全域）		・稲わら、麦わら 500kg ・完熟堆肥 1,000～2,000kg ・レンゲ 1,000kg	・一般品種 9.0kg以下 ・コシヒカリ 7.5kg以下	80%以下
2	飼料用米		・稲わら、麦わら500kg ・完熟堆肥1,000～2,000kg ・レンゲ 1,000kg	9kg以下	慣行散布回数12回 低減の目安80%以下
3	稲WCS		・麦わら等 500kg ・完熟堆肥 1,000～2,000kg ・レンゲ 1,000kg	9kg以下	慣行散布回数11回 低減の目安80%以下
4	小麦（県内全域）		・稲わら、麦わら 500kg ・完熟堆肥 2,000kg ・エンバク、ソルガム等 700kg	10kg以下	75%以下
5	ライ麦		・稲わら、麦わら 500kg ・完熟堆肥 1,000～2,000kg ・エンバク、ソルガム等 700kg	10kg以下	75%以下
6	キビ		1,000～1,500kg	7kg以下	化学農薬延べ散布回数は0回
7	トウモロコシ（子実）		・完熟堆肥 2,000kg ・エンバク、ソルガム等 700kg	26kg以下	80%以下
8	スイートコーン（県内全域）		2,000kg	26kg以下	80%以下
9	そば（県内全域）		・稲わら、麦わら 500kg ・完熟堆肥 1,000kg ・レンゲ 800kg	1.5kg以下	化学農薬延べ散布回数は0回
10	大豆（県内全域）		・稲わら、麦わら 500kg ・完熟堆肥 1,000kg ・エンバク、ソルガム等 700kg	6kg以下	80%以下
11	小豆（県内全域）		・稲わら、麦わら 500kg ・完熟堆肥 1,000kg	2kg以下	80%以下

※ 使用する堆肥等の窒素成分量に留意し、総窒素成分量が「窒素成分量の目安」欄の数値を超えないようにする。

※ 局所施肥技術、肥効調節型肥料施用技術を導入する場合は、土壌条件や前作の肥料残留等に留意して施肥量の低減を図る。

No	作物名	作型等	堆肥等施用技術	化学肥料低減技術	化学農薬低減技術
			施用量の目安 (10a 当たり)	窒素成分量の目安 (10a 当たり) ※	慣行に対する化学農薬延べ散布回数の低減の目安
12	ラッカセイ (県内全域)		・稲わら、麦わら 250kg ・完熟堆肥 500kg	3kg以下	80%以下
13	その他の豆類 (種実)		・稲わら、麦わら 500kg ・完熟堆肥 1,000kg	6kg以下	80%以下
14	カンショ (県内全域)		1,000kg	6kg以下 早取りマルチ栽培 4kg以下	80%以下
15	サトイモ (県内全域)		1,000kg	えびいも 32kg以下 石川早生丸他 30kg以下 在来種 (高冷地) 21kg以下	80%以下
16	バレイショ (県内全域)		1,000kg	黒ボク土、灰色低地土、黄色土 18kg以下 砂丘未熟土 20kg以下	80%以下
17	やまのいも (県内全域)	ナガイモ	2,000kg	38kg以下	80%以下
		自然薯	1,000～3,000kg	32kg以下	70%以下
18	その他のいも類 (キクイモ、ヤーコンなど)		1,000kg	15kg以下	80%以下
19	ナバナ (県内全域)		2,000kg以内	29kg以下	70%以下
20	さいしん (県内全域)	(油菜心)	1作あたり 300～600kg	1作あたり 15kg以下	70%以下
21	ケール		3,000kg	1作あたり 40kg以下 (秋まきは32kg以下)	70%以下
22	コマツナ (県内全域)		1作あたり2,000kg以内	1作あたり 15kg以下	70%以下
23	山東菜 (県内全域)		1作あたり2,000kg以内	1作あたり 15kg以下	80%以下
24	タアサイ (県内全域)		1作あたり1,000kg	1作あたり 12kg以下	70%以下
25	チンゲンサイ (県内全域)	施設栽培	1作あたり2,000kg以内	1作あたり 10kg以下	70%以下
26	てごろ菜 (県内全域)		2,000kg以内	15kg以下	70%以下
27	ミズナ (県内全域)		1作あたり1,000kg以内	1作あたり 12kg以下	70%以下
28	ルッコラ	施設春～秋収穫	1作あたり1,000kg以内	8kg以下	80%以下

※ 使用する堆肥等の窒素分量に留意し、総窒素分量が「窒素分量の目安」欄の数値を超えないようにする。

※ 局所施肥技術、肥効調節型肥料施用技術を導入する場合は、土壌条件や前作の肥料残留等に留意して施肥量の低減を図る。

No	作物名	作型等	堆肥等施用技術	化学肥料低減技術	化学農薬低減技術
			施用量の目安 (10 a 当たり)	窒素分量の目安 (10a当たり) ※	慣行に対する化学農薬延べ散布回数 の低減の目安
29	非結球レタス (県内全域)		2,000kg	年内どり 23kg以下 年明どり 29kg以下	80%以下
30	サンチュ (県内全域)		1作あたり500kg	1作あたり 12kg以下	70%以下
31	エゴマ (県内全域)		1,000kg	7kg以下	化学農薬延べ散布回数は0回
32	シソ (県内全域)		2,000kg	30kg以下	70%以下
33	バジル	施設普通	2,000kg	15kg以下	70%以下
34	コリアンダー (県内全域)	(香菜、シャンツアイ)	1作あたり1,000kg	1作あたり 19kg以下	70%以下
35	セルリー (県内全域)	施設栽培	5,000kg	冬どり 50kg以下 春どり 40kg以下	80%以下
		露地栽培		秋どり 49kg以下	
36	アスパラガス (県内全域)	ハウス、トンネル、 露地	6,000kg以内	1作あたり 36kg以下	80%以下
37	食用アロエ (県内全域)		堆肥及び稲わら400kg	10kg以下	化学農薬延べ散布回数は0回
38	エンサイ (クウシンサイ)	施設春～秋収穫	完熟堆肥 2,000kg	34kg以下	70%以下
39	カリフラワー (県内全域)		3,000kg	28kg以下	70%以下
40	キャベツ (県内全域)		3,000kg	年明け、春どり 36kg以下 年内どり 30kg以下 レッドキャベツ 31kg以下	70%以下
41	クレソン (県内全域)		1作あたり1,000kg以内	1作あたり 3kg以下	80%以下
42	シュンギク (県内全域)		1作あたり2,000kg以内	1作あたり 春どり 15kg以下 秋冬どり 20kg以下	80%以下
43	ショウガ (根ショウガ)		2,000kg	25kg以下	80%以下
44	葉ショウガ (県内全域)	施設・露地	1作あたり5,000kg以内	1作あたり 36kg以下	80%以下
45	すみれ菜 (県内全域)	(スイゼンジナ)	1作あたり堆肥1,000kg	1作あたり 25kg以下	80%以下
46	タマネギ (県内全域)		1,000kg	16kg以下	80%以下
47	ツルムラサキ (県内全域)		2,000kg	21kg以下	70%以下
48	トチュウ		1,000kg	10kg以下	80%以下

※ 使用する堆肥等の窒素分量に留意し、総窒素分量が「窒素分量の目安」欄の数値を超えないようにする。

※ 局所施肥技術、肥効調節型肥料施用技術を導入する場合は、土壌条件や前作の肥料残留等に留意して施肥量の低減を図る。

No	作物名	作型等	堆肥等施用技術	化学肥料低減技術	化学農薬低減技術
			施用量の目安 (10 a 当たり)	窒素分量の目安 (10a当たり) ※	慣行に対する化学農薬延べ散布回数 の低減の目安
49	ニラ		2,000kg	45kg以下	80%以下
50	ニンニク		1,500kg	20kg以下	80%以下
51	葉ニンニク		1,500kg	45kg以下	80%以下
52	ネギ (県内全域)	ア 白ネギ	1,000kg	夏まき 20kg 秋まき 18kg以下 春まき 16kg以下	80%以下
		イ 葉ネギ	2,000kg以内	夏まき 16kg以下 秋～春まき 20kg以下	
53	ハクサイ (県内全域)		2,000kg	18kg以下	70%以下
54	フキ		1,000kg	30kg以下	80%以下
55	ブロッコリー (県内全域)		3,000kg	31kg以下	70%以下
56	茎ブロッコリー (県内全域)		3,000kg	37kg以下	80%以下
57	ホウレンソウ (県内全域)		1 作あたり2,000kg以内	1 作あたり 夏・秋どり 15kg以下 春・冬どり 20kg以下	80%以下
58	ミョウガ (県内全域)		1,000～2,000kg	18kg以下	70%以下
59	メキャベツ (県内全域) (非結球タイプを含む)		3,000kg	沖積・洪積 29kg以下 海成砂質 39kg以下	70%以下
60	モロヘイヤ (県内全域)	ア 施設栽培	2,000kg以内	促成栽培 35kg以下 半促成 20kg以下	80%以下
		イ 露地栽培		20kg以下	
61	ラッキョウ (県内全域)		2,000kg	30kg以下	80%以下
62	エシャレット (県内全域)		2,000kg	30kg以下	80%以下
63	レタス (県内全域)		2,000kg	秋どり 20kg以下 冬どり 26kg以下	80%以下
64	ワケギ		2,000kg	25kg以下	80%以下
65	トウガン (県内全域)		2,000kg	25kg以下	70%以下



※ 使用する堆肥等の窒素成分量に留意し、総窒素成分量が「窒素成分量の目安」欄の数値を超えないようにする。

※ 局所施肥技術、肥効調節型肥料施用技術を導入する場合は、土壌条件や前作の肥料残留等に留意して施肥量の低減を図る。

No	作物名	作型等	堆肥等施用技術	化学肥料低減技術	化学農薬低減技術
			施用量の目安 (10 a 当たり)	窒素成分量の目安 (10a当たり) ※	慣行に対する化学農薬延べ散布回数 の低減の目安
66	シシトウ・トウガラシ (県内全域)		2,000kg	35kg以下	70%以下
67	エダマメ (県内全域)		1 作あたり 1,000kg	1 作あたり 10kg以下	70%以下
68	サヤインゲン		2,000kg	20kg以下	80%以下
69	サヤエンドウ (県内全域)		2,000kg	キヌサヤエンドウ 25kg以下 砂糖エンドウ 19kg以下	80%以下
70	未成熟ソラマメ		2,000kg	15kg以下	80%以下
71	イチゴ (県内全域)	施設栽培	2,000kg	黒ボク土・灰色低地土・黄色土 地域 23.4kg以下 砂丘未熟土地域 34kg以下	70%以下
72	オクラ	露地普通	2,000kg	25kg以下	70%以下
73	カボチャ (県内全域)	トンネル栽培	2,000kg	壤質～粘質土 20kg以下 砂質土 28kg以下	80%以下
		露地栽培		20kg以下	70%以下
74	キュウリ (県内全域)	施設栽培	2,000kg	32kg以下	80%以下
		露地栽培	3,000kg	30kg以下	70%以下
75	スイカ (県内全域)	トンネル栽培	2,000kg	黒ボク土 7kg以下 黄色土 8kg以下 砂質土 22kg以下	80%以下
		ハウス栽培	2,000kg	黒ぼく土 5kg以下	80%以下
76	ズッキーニ	露地普通	2,000kg	18kg以下	70%以下
77	トマト (県内全域)	施設栽培 (促成栽培、 抑制栽培、 無加温)	・促成栽培 3,000kg ・抑制、無加温栽培 2,000kg	促成栽培 24kg以下 越冬長期 39.8kg以下 (砂質土) 36.0kg以下 (壤質～粘質土) 抑制栽培 21.6kg以下 (砂質土) 19.2kg以下 (壤質～粘質土) 無加温栽培 21kg以下	70%以下
		露地栽培	2,000kg	21kg以下	

※ 使用する堆肥等の窒素分量に留意し、総窒素分量が「窒素分量の目安」欄の数値を超えないようにする。

※ 局所施肥技術、肥効調節型肥料施用技術を導入する場合は、土壌条件や前作の肥料残留等に留意して施肥量の低減を図る。

No	作物名	作型等	堆肥等施用技術	化学肥料低減技術	化学農薬低減技術
			施用量の目安 (10a 当たり)	窒素分量の目安 (10a 当たり) ※	慣行に対する化学農薬延べ散布回数 の低減の目安
	中玉トマト、ミニトマト (県内全域)	施設栽培	2,000kg	36.0kg以下 (壤土～粘質土)	
		露地栽培		39.8kg以下 (砂質土)	
78	ナス (県内全域)	ア 施設栽培	3,000kg	早熟栽培 26kg以下 促成栽培 52kg以下	70%以下
		イ 露地栽培		26kg以下 長期栽培は50kg以下	
79	ニガウリ (県内全域)		2,000kg	30kg以下	70%以下
80	ピーマン (県内全域)	露地栽培	2,000kg	27kg以下	70%以下
		施設栽培		35kg以下	
81	マクワウリ	露地普通	2,000kg	10kg以下	70%以下
82	温室メロン (県内全域)	施設栽培	220～660kg	1作あたり 14kg以下	80%以下
83	カブ (県内全域)		1作あたり1,000kg以内	1作あたり 6～8月まき 4kg以下 4～5月及び9月まき 15kg以下 (ハウス10kg以下) トンネル冬春どり 20kg以下 (ハウス15kg以下)	70%以下
84	ゴボウ (県内全域)		1,000kg	砂質土 30kg以下 黒ボク土 13kg以下	80%以下
85	ダイコン (県内全域)		1,000kg	(黒ボク土、黄色土) ・年内どり 16kg以下 ・1～3月どり 29kg以下 (砂質土) 34kg以下	70%以下
86	葉ダイコン	施設春～秋収穫	1作あたり2,000kg以内	15kg以下	80%以下
87	ニンジン (県内全域)		2,000kg	春どり 15kg以下 冬どり 16kg以下	80%以下
88	ハツカダイコン	施設春～秋収穫	1作あたり1,000kg以内	10kg以下	80%以下
89	レンコン		1,000kg	32kg以下	80%以下

※ 使用する堆肥等の窒素分量に留意し、総窒素分量が「窒素分量の目安」欄の数値を超えないようにする。

※ 局所施肥技術、肥効調節型肥料施用技術を導入する場合は、土壌条件や前作の肥料残留等に留意して施肥量の低減を図る。

No	作物名	作型等	堆肥等施用技術	化学肥料低減技術	化学農薬低減技術
			施用量の目安 (10a 当たり)	窒素分量の目安 (10a 当たり) ※	慣行に対する化学農薬延べ散布回数 の低減の目安
90	マコモタケ	露地栽培	1,000kg	23kg以下	80%以下
91	タケノコ	露地普通	500～1,000kg	33kg以下	80%以下
92	ゴマ(子実)		1,000kg	10kg以下	80%以下
93	ヒマワリ(子実) (県内全域)	露地栽培	2,000kg	10kg以下	80%以下
94	茶 (県内全域)		<ul style="list-style-type: none"> <li>完熟堆肥 (土壌診断結果をもとに 適量を施用する) 500kg以上 または 粗大有機物500～1,000kg</li> </ul>	(成木園) 年間窒素分量40kg以内 (ただし、地域ごとに土壌条件、 気象条件及び栽培体系が異なる ため、窒素施用量低減により品 質が低下する地域では、環境基 準に配慮した上で、年間窒素施 肥量54kgを上限とする。)	80%以下
95	温州ミカン (県内全域)	露地栽培	<ul style="list-style-type: none"> <li>完熟堆肥1,000～2,000kg 品質への影響が心配な場合は、窒素 成分が少ないバーク、稲わら堆肥、 ピートモス等を施用する。</li> <li>粗大有機物500～1,000kg</li> </ul>	(普通温州) 肥沃土壌 22kg以下※ 普通土壌 30kg以下※ (早生・極早生) 肥沃土壌 20kg以下※ 普通土壌 25kg以下※ ※作業道の有無等により栽植本 数が異なる場合は施肥量を調整 する ○肥沃土壌：主要根群域が30cm 以上と深く、保水力、保水性が 高い園地に適用する。 ○普通土壌：主要根群域が30cm 以下と浅く、保水力、保水性が 比較的低い園地に適用する。	80%以下
		施設栽培 (ハウスミ カン)		早期加温夏芽母枝 17kg以下 後期加温春芽母枝 20kg以下	

※ 使用する堆肥等の窒素成分量に留意し、総窒素成分量が「窒素成分量の目安」欄の数値を超えないようにする。

※ 局所施肥技術、肥効調節型肥料施用技術を導入する場合は、土壌条件や前作の肥料残留等に留意して施肥量の低減を図る。

No	作物名	作型等	堆肥等施用技術	化学肥料低減技術	化学農薬低減技術
			施用量の目安 (10a 当たり)	窒素成分量の目安 (10a 当たり) ※	慣行に対する化学農薬延べ散布回数 の低減の目安
96	中晩柑類 (県内全域)		・完熟堆肥1,000～2,000kg ・粗大有機物500～1,000kg	別表2 参照	80%以下
97	ブルーベリー (県内全域)		3,000kg (有機物マルチを兼ねる)	8kg以下	70%以下
98	ベリー類 (ブラックベリー、食用桑)		・完熟堆肥1,000～2,000kg ・粗大有機物500～1,000kg	15kg以下	80%以下
99	イチジク (県内全域)	露地栽培	・完熟堆肥1,000～2,000kg ・粗大有機物500～1,000kg	20kg以下	80%以下
		施設栽培	2,000kg		
100	オウトウ		・完熟堆肥1,000～2,000kg ・粗大有機物500～1,000kg	15kg以下	80%以下
101	カキ (県内全域)		・完熟堆肥1,000～2,000kg ・粗大有機物500～1,000kg	肥沃土壌 17kg以下 普通土壌 20kg以下	80%以下
102	核果類 (ウメ、モモ、スモモ) (県内全域)		・完熟堆肥1,000～2,000kg ・粗大有機物500～1,000kg	別表1 参照	80%以下
103	キウイフルーツ (県内全域)		・完熟堆肥1,000～2,000kg ・粗大有機物500～1,000kg	18kg以下	80%以下
104	クリ (県内全域)		・完熟堆肥1,000～2,000kg	12kg以下	80%以下
105	くるみ		・完熟堆肥1,000～2,000kg ・粗大有機物500～1,000kg	8kg以下	80%以下
106	ナシ (県内全域)	露地栽培	・完熟堆肥1,000～2,000kg ・粗大有機物500～1,000kg	20kg以下	80%以下
		施設栽培			
107	びわ		2,000kg	25kg以下	80%以下
108	ブドウ (県内全域)		・完熟堆肥1,000～2,000kg ・粗大有機物500～1,000kg	ハウス 8kg以下 屋根かけ 10kg以下	80%以下
109	リンゴ		・完熟堆肥1,000～2,000kg ・粗大有機物500～1,000kg	15kg以下	80%以下

※ 使用する堆肥等の窒素分量に留意し、総窒素分量が「窒素分量の目安」欄の数値を超えないようにする。  
 ※ 局所施肥技術、肥効調節型肥料施用技術を導入する場合は、土壌条件や前作の肥料残留等に留意して施肥量の低減を図る。

No	作物名	作型等	堆肥等施用技術	化学肥料低減技術	化学農薬低減技術
			施用量の目安 (10 a 当たり)	窒素分量の目安 (10a当たり) ※	慣行に対する化学農薬延べ散布回数 の低減の目安
110	未成熟パパイヤ	露地栽培	2000kg	20kg以下	70%以下
		無加温ハウス	2000kg	16kg以下	70%以下
111	オリーブ		・完熟堆肥1,000～2,000kg ・粗大有機物500～1,000kg	16kg以下	80%以下
112	カーネーション (県内全域)		3,000kg	54kg以下	80%以下
113	ガーベラ (県内全域)	施設栽培	8,000kg 植付時	45kg以下	80%以下
114	キク (県内全域)	施設栽培	1 作あたり 2,000kg	1 作あたり 22kg以下	80%以下
		露地栽培	2,000kg	28kg以下	
115	コデマリ	ビニル加温促成	2,000kg	25kg以下	80%以下
		ビニル無加温半促成			
		露地			
116	トルコギキョウ (県内全域)	施設栽培	3,000kg	12kg以下	80%以下
117	バラ (県内全域)	施設栽培	20,000kg 植付時	46kg以下	80%以下

様式2 (続き)

別表1 核果類の施肥基準量

種 類	窒素成分量 (10a当たり)	植栽本数 (10a当たり)	収量 (10a当たり)
ウメ	15kg	20本	2,000kg
モモ(露地)	12kg	30~40本	1,200~2,500kg
スモモ	14kg	16本	2,000kg

\*植栽本数、目標収量によって施肥量を調節する

別表2 中晩柑類の施肥基準量

種 類	窒素成分量 (10a当たり)	植栽本数 (10a当たり)	収量 (10a当たり)
甘夏(肥沃土壌)	35kg	60本	5,000kg
甘夏(普通土壌) (夏みかん)		75本	4,000kg
日向夏 (はるか) (はるひ) (文旦) (河内晩柑) (グレープフルーツ)	30kg	75本 60本 50本 60本	3,000kg
ネーブルオレンジ (ダイダイ) (レモン)施設 (レモン)露地 (スダチ) (黄金柑) (ユズ)	35kg 30kg 28kg	75本 80本 50本	2,500kg 2,000kg
伊予柑 ポンカン 清見 (南津海) 八朔 はるみ 不知火 (せとか) (麗紅)	35kg 30kg	75本 60本 75本	3,000kg 2,500kg
きんかん (寧波金柑)露地	30kg	100本	3,000kg

\*植栽本数、収量により施肥量を調節する。夏みかんは甘夏(普通土壌)に準拠、はるか、はるひ、文旦、河内晩柑、グレープフルーツは日向夏に準拠、レモン、ダイダイ、スダチ、黄金柑、ユズはネーブルオレンジに準拠、南津海は清見に準拠、せとか、麗紅は不知火に準拠し、単収を考慮した換算値。